

2021年 社長年頭挨拶

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、年頭挨拶として、社長から全役職員に向け、メッセージを送りました。社長メッセージのあらましは以下のとおりです。

1. 特別計画を策定し、コロナ禍への対応に全力で取り組み

- ・ 2020年は、新型コロナウイルスの感染が全世界に拡大し、わが国においても緊急事態宣言が発令されるなど、社会のあり様が一変し、私たちもかつて経験したことのない生活を強いられた。この影響は実体経済・金融市場にも波及し、日本の実質GDPが4～6月期に年率▲29.2%と戦後最大の下げ幅を記録したほか、世界の主要各国における金利のさらなる低下、株価等の各種指標の乱高下が発生し、現在もなお不安定な状況が続いている。
- ・ そのようななか、4月には「『ひとに健康を、まちに元気を。』最も身近なリーディング生保へ」を10年後にめざす姿として掲げる10年計画「MY Mutual Way 2030」をスタートした。その初年度である2020年度は、異例の対応であるが、次期中期経営計画「MY Mutual Way I 期」を1年延期し、2020年度単年度の「とことん！アフターフォロー特別計画」を策定・推進することで、コロナ禍への対応に全社を挙げて取り組んでいる。具体的には、保険金・給付金のお支払いをはじめとする基幹業務の維持を前提に、ご契約に係る特別取扱い等のご案内や、「保障内容と保険料のコンサルティング」、非対面インフラの整備やテレワーク環境の拡充等に取り組み、経営目標に設定している「お客さまアクセス数（個人営業・法人営業）」「アドバイザー（営業職員）数」は、いずれも順調に進捗している。
- ・ 7月には生命保険協会の協会長会社となり、文字どおり業界の先頭に立って、「新たな日常」に即した対応を進めてきた。
- ・ 4月以降、社会全体に閉塞感が漂い、先行きが不透明であるなか、会社の取組みに尽力してくれた役職員みなさんに、感謝申しあげる。

2. 3 ヶ年プログラム「MY Mutual Way I 期」をスタート

- ・迎えた2021年は、英国や米国でワクチンの接種が開始されるなど、明るい兆しも見えつつあるが、当面は予断を許さない状況が続くものと考えられる。一方、「新たな日常」に向かう社会の変容、例えばデジタルシフトは確実に進展し、「Contactless（コンタクトレス）エコノミー」、すなわち人と人との接触を避けつつ、経済活動等を行なう環境が常態化することとなる。また、世界の情勢に目を向けると、米国で新大統領が就任し、その外交姿勢が従来の米国第一主義から国際協調路線に転換する見込みだが、米中の対立は今後も継続するものとみられ、経済・金融環境への影響を引き続き注視していく必要がある。
- ・このような激動の経営環境のなか、この4月、いよいよ1年越しで3 ヶ年プログラム「MY Mutual Way I 期」をスタートする。これまで伝えてきたとおり、この3 ヶ年プログラム「MY Mutual Way I 期」は「10年後にめざす姿」への軌道の確保に向けたフェーズチェンジに取り組む計画であり、その位置づけにいささかの変更もないが、社会の変容が加速するなか、1年延期した中期経営計画の内容を一部見直し、新たな取組みを追加することで、対応していく方針だ。具体的には、4つの「大」改革と2「大」プロジェクトの本格展開を基軸としつつ、新たにDX（デジタル・トランスフォーメーション）戦略を策定し、全社横断的にデジタルを活用することで、事業構造の変革・高度化、徹底的な効率化を強力に推進していく。また、すでにお客さまへのご案内をスタートしているが、「MY ミューチュアル配当」の創設・活用を通じ、「相互会社ならではの」の価値を最大限訴求していく。
- ・こうした次期中期経営計画の検討は、まさに佳境に差し掛かっているところであり、当初の中期経営計画にも増して、ワクワクした内容になっているので、大いに期待してほしい。

3. 東日本大震災の経験を共有し、想いを新たに

- ・2021年3月11日をもって、東日本大震災の発生から10年が経過することとなる。震災が発生した当時、当社はどの生命保険会社よりも早く、正確に、そして丁寧に関心確認とお支払手続きに取り組んだ。個人保険のお客さまについて言えば、5月には実に96.7%のお客さまの関心確認を完了し、大きな注目を集めた。この驚異的な数値が、私たちのお客さまへの想いや使命感の強さを如実に、そして雄弁に物語っている。

- ・これを機に、お客さまに寄り添う「対面のアフターフォロー」の重要性が社内外に広く認識されるようになり、私自身も「これを担うアドバイザーチャネルこそが経営の根幹である」ことを改めて認識した出来事となった。そして、この経験が「明治安田フィロソフィー」として結実し、今日の明治安田生命の根幹を成している。
- ・今般のコロナ禍においては、どの会社よりも迅速に特別計画を策定し、対面での活動を再開した結果、お客さまから上半期末時点で実に約5.7万件もの感謝の声をいただいた。
- ・東日本大震災の経験で培ったチーム明治安田のDNAが、「明治安田フィロソフィー」として役職員のみなさんの心に深く刻まれ、いつ・いかなる時でも、お客さまに寄り添い、お客さまのために何ができるのかを自ら考え、実行することができる。私はそうした役職員のみなさんを心から誇りに思っている。
- ・時の経過とともに、震災以降に入社した方が増加してきたが、この10年の節目を機に、被災者や震災に対応された方の経験・想いを継承しなければならない。これからは私たち明治安田生命グループの全役職員が、「大震災の経験を決して風化させない」「被災地域のみなさまに温かい感謝の気持ちで寄り添い続ける」ために、この節目にそれぞれの経験を語り合い、想いを新たにしたい。

4. コロナ禍を乗り越え、夢のある未来へ向かって

- ・私たちは、いつ・いかなる時でも、「明治安田フィロソフィー」と、その具体的な行動指針である「私たちの行動原則」に照らして、一人ひとりが自律的・主体的に考え、実践していかなければならない。そうした日々の行動の積み重ねが、特別計画の完遂、次期中期経営計画のスタート、そしてコロナ禍を乗り越える原動力になると信じている。
- ・コロナ禍の出口はいまだ見えないが、私たちは、これまで培ってきた対面の強みに加え、非対面のコミュニケーション等、新たな武器を磨き続けている。この経験により、いずれ必ず訪れるアフターコロナにおいて、強靱性・柔軟性・生産性を飛躍的に高め、10年後にめざす姿に向かって大きく前進できるはずだ。
- ・コロナの先にある、夢のある未来に向かって、2021年も明るく元気に、ともに頑張っていこう。